

銀の鈴

猪名川町立白金小学校
令和6年3月7日
学校通信 No. 14

「あい・ワクワクプラン(白小版)」

学校改革プラン「あい・ワクワクプラン(小学校編)」に基づいて、新年度からの白金小学校では以下のような取り組みを行います。学校評価の保護者アンケート、児童アンケート、教職員アンケートの結果、学校運営協議会からいただいた提案を反映した計画になっています。

【子ども・教職員のゆとり生み出すために】

(1) 時間割コマ数の1校時分の削減 (詳細は「銀の鈴」No. 13をご覧ください)

- ・3～6年生は、年間を通して月曜日が5時間授業になります。
- ・1学期のみ、1年生は月曜日が4時間授業、2年生は火曜日が5時間授業になります。
- ・2学期以降は、1年生は月曜日が5時間授業、2年生は火曜日が6時間授業に戻ります。
- ・登校時刻の変更はありません(8:00～8:15に学校に到着する)。下校時刻は、4時間授業の日は13:30頃、5時間授業の日は14:35頃、6時間授業の日は15:25頃となります。
- ・授業時間、休み時間、清掃、給食等の一日の時程を定めた「校時表」については、改めてお知らせします。

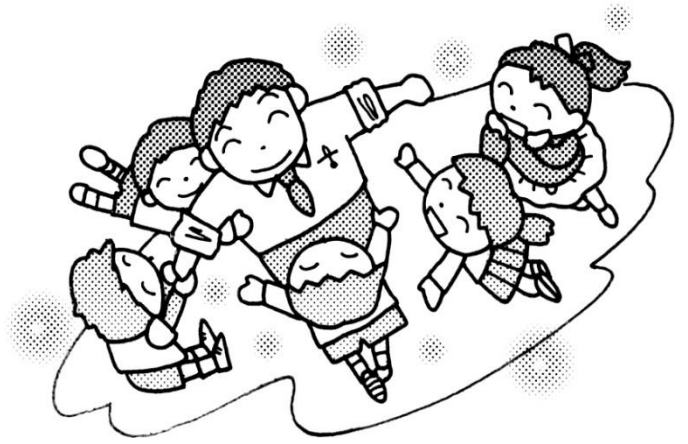
【子どもを多くの目で見守るために】

(2) 一部教科の教科担任制を4年生以上で実施

- ・担任だけでなく、複数の教職員が授業を行うことで、一人ひとりの子どもを多面的に理解し、チームで指導します。
- ・学習習慣や生活習慣を学年の教職員全体で育てていくことを目的に行っていきます。
- ・子どもの様子をそれぞれの教員が情報共有する機会を確保します。特別支援教育とし



ての配慮が必要な子ども、組織的な生徒指導が必要な子どもについては、校内委員会を開き、特別支援教育コーディネーターやスクール・ソーシャル・ワーカー(SSW)、スクール・カウンセラー(SC)の支援を受けていきます。



(3) 交換授業を1, 2, 3年生で実施

- ・4年生以上の教科担任制と同様のねらいで、同学年の教職員による一部教科の授業交換を行います。

【子どもたちの学習や生活の充実をめざして】

(4) 朝学習の実施

- ・1校時の授業前に基礎学力の定着をめざした「朝の学習タイム」を実施します。
- ・時間割コマ数: 15分間×3回=1校時分の学習時間の増加となります。

(5) 体験的学習の計画的な実施

- ・各学年で行われてきた体験的な学習の学年間の系統を見直し、他教科の学習とも連動した総合的な学びに変えていきます。
- ・ゲスト・ティーチャーの招聘を積極的に行い、子どもの学習意欲を高めるとともに、生きた学習知識を獲得する機会とします。

(6) 個別指導の充実

- ・授業内容を定着させていくために補習が必要な子どもについては、本人と保護者の同意のもとに「いなぼう学習タイム」などの個別指導をこれからも実施していきます。
- ・学習支援ボランティアを増やすため、地域住民・保護者・学生から追加募集をしていきます。

(7) 電子機器の活用

- ・タブレットを有効活用した授業や家庭学習を更に推進します。
- ・タブレットと電子黒板を連携させた授業を更に行っていきます。



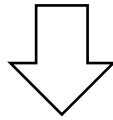
(8) 教職員研修の充実

- ・授業の基礎基本、子どもにとってわかる楽しい授業の実施方法を学ぶため、教育委員会の専門指導員、大学、先進校等の指導者を招聘するなどして、教職員の研修を充実させていきます。

【保護者と教職員の連携を強化するために】

(9) 選択制個人懇談の一部変更

- ・昨年度、実施した選択制の個人懇談では、1学期、2学期のいずれか1回は懇談を実施し、保護者、教員が必要と思うときは2回とも実施していましたが・・・



- ・新年度からは、1学期の個人懇談は全員実施し、2学期については選択制で行い、保護者が希望する、もしくは、教員が必要と思う場合に実施する方法で行います。

(10) 教育相談の充実

- ・新年度スタートにあたって、保護者が希望する、もしくは担任が希望する場合に教育相談を実施します。〈5月1日(水)～5月2日(木)〉
- ・年度初めの教育相談、1学期末、2学期末に行う個人懇談以外にも、保護者、担任が必要と思う場合は、随時相談を行っていきます。

(11) 参観日の追加実施

- ・児童の様子を見ていただく機会を増やすために、従来の参観日に加えて、保護者のみならず地域住民も参観できる「オープン参観」の日を2回増やして3回にします。年間の参観日は6回になります。
- ・参観日以外にも、保護者に実習の補助や校外学習の補助など、授業支援ボランティアとして参加いただき、子どもの日常の様子を見ていただくとともに、保護者どうしのつながりも強めていただくようにします。

保護者どうしのつながり

白金小学校の子どもたちが、地域や保護者から受けてきた様々なサービスが、コロナ禍に見舞われたここ数年間で、大幅になくなってしまったという話が学校運営協議会のなかで話題になりました。

以前の白金小学校の子どもたちは、地域住民やPTAの協力で田植えや稲刈りをさせてもらったり、稲わらでお正月のしめ縄づくりをしました。しめ縄づくりのウラジロは、保護者有志「おやじの会」のメンバーが近くの里山で採ってきてくださいました。6年生は卒業前に役場横の静思館でお抹茶をいただくという恒例行事もありました。夏には校舎の壁を使った野外映画会がありました。学級役員さんがおられたころには親子で活動する学級PTA活動があり、スポーツ大会や一緒に作品づくりをするようなこともありました。白金子ども会では、槻並のキャンプ場へ歩いて行ってカレー作りをしました。遊園地への遠足などもありました。子どもだけでなく、これらの活動を通じて、保護者どうし仲良くなり、地域の方々とも温かい交流がありました。

コロナ禍により様々な行事が中止になり、それを行うノウハウも途絶えてしまっています。また、保護者の多忙化により以前のような活動を続けていくことができないという社会的な変化があります。時代の変化の中で、「大人が力を合わせて、子どものために何かをする」ということが、極端に少なくなっ

てしまいました。学校評価の保護者アンケートに「保護者どうし子育てについて相談し、支え合うつながりを持っていきたい」という項目がありました。肯定的評価の合計は66.4%。否定的評価の合計は33.5%でした。肯定的な意見が半数を超えていることに安堵するとともに、3分の1の方は、保護者どうしの支え合いやつながりの必要を感じておられないということに衝撃を受けました。

以前していたことをもと通りに戻すことはできませんが、やり方を工夫して、子どものために行えるものがないか、考えることはできるのではないかと思います。大人どうしが心を通わせたり、力を合わせたりしている姿を子どもに見せることは、それ自体が最大の教育であると思います。子育ては一人では難しいですが、人と力を合わせるとなんとか進めるように思います。

学校も来年度は、参観日を増やしたり、保護者に授業や活動に参加していただく機会を増やしていこうと考えています。保護者どうしが触れ合う機会を増やし、良いつながりを持っていただくようとする取り組みです。

子どもたちを取り巻く教育環境を良くしていきたいと思います。昨年度から、ボランティアをしてくださる方が増えてきています。たいへんありがたいです。これからもどうぞよろしくお願い致します。

